

論 文

中日民話集成の編纂と民話の話型 分類に関する研究への考察

唐 植 君

湖北第二師範学院講師・広島大学大学院文学研究科博士課程後期

Investigation of folktale compilation and type classification research
between China and Japan

TANG Zhijun

Abstract: This study focuses on the definition and understanding of Chinese and Japanese folktales, paying careful attention to folktales that Chinese and Japanese scholars have collated, integrated, and published since the 19th century. Thus, by introducing the scholars' research achievements in the classification of folktale types in China and Japan, this study investigates the problems and deficiencies of previous research.

Keywords: Chinese and Japanese folk tales, Story compilation, type classification

はじめに

文字がまだ作られていない時代において、民衆によって口から口へと伝承されてきた口承文芸は民間文学の主な形態であった。文字で書かれた文学が現れた後も、口承文学は民衆に大変好まれて、依然として根強い生命力を持っている。民間説話が口承文芸ないし民間文学の大切な要素で、民族性や地域性の著しい文学形態であるため、各民族の文化を研究するに重要な資料だとされる。

民間説話（略語は民話である）という概念について、ステイス・タンブソンが『民間説話 世界の昔話とその分類』にて説明している。「民間説話を世界的視野から研究しようとする時に会う概念の中でもっとも頻度の高いものは、ドイツ語でメルヘン (Märchen) と呼ばれているものであろう。これに当る適切な言葉は英語にはない。普通 fairy tale (妖精譚) また household tale

(家の話)と訳されているけれども。フランス語では *conte populaire* (民衆の話) といっている。譬えていえば、それはシンデレラ、白雪姫、ヘンゼルとグレーテルのような話のことである。妖精譚という用語からは妖精の出る話という意味あいを感じられるが、大部分の話には妖精などは出てきはない。「家の話」とか *contes populaires* という用語はあまりにも総括的であり過ぎて、どんな話にも通用してしまう。結局ドイツ語のメルヘンが一番適切でまずは誰にでも受け入れられ得る用語といい得るであろう。メルヘンはある程度の長さをもった話であり、一連のモチーフなり、構成挿話なりをその中に含んだものである。それは特定の場所、特定の人物を設定せず、架空の世界の中での出来事で、あり得ないことがらに満ちている。¹ 今は民話を *folktale* や *folk story* などの英語に訳している場合もある。

中国では、民話は「民間故事」と呼ばれ、民俗学と民間文学研究の範囲に属しているとされる。それに、民間故事という言い方が範囲が広すぎると見られるために、中国では広義と狭義と区別されている。『中国民間文学大辞典』にて「(民間故事は) 民間文学の重要な分野の一つである。それは広義と狭義の2種類の概念を持っている。広義とは、労働人民の口頭での創作と、民間に伝わる神話、伝説、生活説話、冗談、寓話、童話など、すべての散文作品の通称であり、『瞎話』、『古経』、『古語』などと呼ばれる場合もある。狭義とは、神話や伝説以外の幻想的色彩と現実性の強い言葉で創作された散文の作品を指す。…民間故事は幻想的な説話と現実性の強い説話との二つの種類に分けられ、具体的には幻想説話、生活説話、寓話と笑い話の4種に分けられる。」と説明している。²

日本では民間説話を略称して、「民話」と言う。民話に関する説明と定義は以下である。「民話 (*folk-narrative*) 民間において口承で伝えられてきた散文形式の説話である昔話・伝説・世間話の総称としての、民間説話の略称。中国では「民間故事」と呼ばれる。」³ 「民衆の生活の中から生まれ、民衆によって口から口へと伝えられてきた説話。昔話・伝説など。民間説話。民譚(みんだん)。」⁴ 「民話(みんわ、英: *folktale, folk story*)、民間説話(みんかんせつわ)は、民衆(柳田國男のいう「常民」)の生活のなかから生まれ、民衆によって口承(口頭で伝承)されてきた説話のこと。昔話のほか、伝説、世間話その他を含める。口承文学、また民俗資料の一。民譚(みんだん)ともいう。研究する学問は民俗学。」⁵

以上の説明をまとめると、中国の「民間故事」にも日本の「民話」にも広義と狭義の区別があることが明らかだ。それに、広義と言えば、中国の「民間故事」は神話、伝説、生活説話、冗談、寓話、童話などを指し、日本の「民話」は昔話、伝説、世間話などことを指す。狭義と言えば、中国では神話、伝説など以外の幻想的色彩と現実性の強い散文の作品であり、日本では昔話のことだけを指す。つまり、広義的な中国の「民間故事」と広義的な日本の「民話」、狭義的な中国の「民間故事」と日本の「昔話」は範囲が近いということがわかる。ただし、一部の学者が「昔話」を中国の広義的な「民間故事」と対応している術語として使っているところもある。

1. 中日民話集の編纂とその成果

中日両国は地理的一水に隣接して、長期的な文化交流史を持っているため、中国と日本民話に関心を持っている研究者は、容易に中日両国の民話に関する対比研究、特に中日民話の話型、類話の異文研究などの方向に目を向ける傾向がある。民話の話型分類研究ないし中日両国民話に関する対比研究を行うために、健全な民話の資料を捜し、整理していくのが先決条件と基礎的な作業である。

グリム兄弟が 1812-1814 年に、ドイツの民話集『グリム・童話集』を発表してから、世界は民間説話の収集作業のゴールデン時代に突入したと言われる。民衆がいる至る所まで民話が伝わっているはずだと言われるとおり、中日両国の民衆の中に伝わっている民話は星のように多く、様々な民話の単行本、文庫本、集成なども数え切れないほど刊行されている。因って、以下は主に 19 世紀以来中日両国で出版された全面的、系統的な民話集などを紹介する。

1.1 中国における民話の収集と民話集の編纂

1918 年に当時の北京大学学長の蔡元培をはじめ、劉復、沈尹默などによって全国的な歌謡募集活動を行った事例は中国学術史上、民間文学の収集のスタートだと見られる。

1.1.1 民話選本

民話選本の刊行と言えば、各種の書目や文献などに基づいた不完全な統計によると、状況は以下のとおりである。「1927 年から 1949 年にかけて、31 種類の選本が刊行された。年間の分布状況は、1927 年から 1929 年にかけて 8

種類、1931年から1939年にかけて10種類、1942年から1949年にかけて13種類が刊行された。20、30年代の時期は集中的に1929年に7種、1931年に3種、1933年に2種出版され、他の時期は均衡的に出版された。40年代は1948年と1949年の2年間に、それぞれ4種類と7種類が刊行された。全体的に見れば、このような総合的な「故事」選本が大体地域的な説話だと見られる。」⁶

1.1.2 『中国各地民間故事集』

1954年に中国民間文芸研究会は『民間文学叢書』を主編した。最初に『中国出了個毛沢東』、『陝北民歌選』、『爬山歌選』、『東蒙民歌選』などを出版した。次に1959年から、『中国各地歌謡集』、『中国各地民間故事集』と『中国民間叙事詩叢書』を次々に編集した。編集と出版は統一的な基準がなかったため、『中国各地民間故事集』には中国の省と市を編集単位として整理された分冊（『河南民間故事』、『安徽民間故事』など）もあり、あるテーマを巡って整理された説話集（『義和団故事』など）もある。今でも『中国各地民間故事集』の出版状況と総冊数を記載する資料などはまだ見つけられていない。

1.1.3 『中国民間故事集成』

1984年に中国文化部、国家民委（民族事務委員会）と中国民協（民間文芸家協会）は共に『民間文学三つの集成』を出版することを公式に発表した。その後、『集成』を編纂するために、何十万人の文学、民俗研究者が調査、収集、編纂などの仕事に力を入れて、20年余りの時間がかかった。成果としての「三つの集成」は「世紀的な経典」と「文化の長城」と呼ばれ、『中国民間故事集成』、『中国歌謡集成』、『中国諺語集成』の三つの集成からなっており、省巻本90冊、県巻本4000冊余りがある。『中国民間故事集成』省巻本は鐘敬文が主編であり、中国民間文学集成全国編纂委員会が作成した統一の基準に従って整理した民話の資料に基づいて、1992年から2008年にかけて中国ISBNセンターによって省巻本30冊、県巻本数百冊が出版された。中国の各地域、各民族の神話、伝説、説話、寓話、笑い話など、さまざまなジャンルの練られた作品を選び、まず作品のジャンルを分類し、ジャンルの下に内容ごとに配列している。『中国民間故事集成』は中国のすべての民話を席卷したとは言えないが、その調査、整理のやり方は地理的な区分、すなわち中国の行政区分を基準として、国内でも最大規模、系統的な民話の収集作業とすることができる。それに、この作業も中国民話の調査、収集、整理と編纂、出版の新

しいクライマックスを巻き起こして、あまり知られていない民話、特に少数民族の民話を再現したと言われる。

1.1.4 『中国民間故事全書』

2011年から知識産権出版社が発行した『中国民間故事全書』は、中国の民間文化遺産の救出工程の主幹項目の一つとして、中国「十一五」⁷ 期間の国家重点図書出版計画に含まれている。『中国民間故事全書』は省と市を地域別に分けて、各省の総巻本がない、省に属する県、市、区の民話をまとめて出版した。例えば、上海の民話集は徐彙巻、宝山巻、浦東新区巻（上、下）、虹口巻（上、下）、黄浦巻（上、下）、静安巻など19巻から構成されている。山東の民話集は枣庄市の行政区分を基にして、市中巻、山亭巻、薛城巻、峯城巻、台儿庄巻、滕州巻の6巻で、雲南巻は洱源巻、祥雲巻、曇龍巻、永平巻、大理巻など12巻からなっている。『中国民間故事全書』は白庚勝により主編され、全国的な民話の総集であり、各冊には神話、伝説、説話、笑い話の四つの部分が含まれている。

1.2 日本における民話の収集と民話集の編纂

中国と一水に隣接している日本は、国土面積が中国の1/25に過ぎないが、国民と研究者達の民話に対する情熱は中国に劣らないほど高い。各種の民話選本と民話集の編纂も着実に進んでいる。

前文に、日本の民俗学者や民間文学研究者が日本の民話を論及する時、日本の特色を持つ用語「昔話」を多用すると述べた。アールネが1910年に『Folklore Fellows' Communications』（以下はFFC誌と略称する）NO. 3に発表した『Verzeichnis der Märchentypen』（AT分類⁸）は世界において最初の世界民話についての分類である。その中に使われた民話に関する用語「Tiermärchen」、「Eigentliche Märchen」が対応している日本語の訳文は「動物昔話」、「本格昔話」である。ハンス（Hans-Jörg Uther）によって修訂され、2011年にFFC誌に発表されたAT分類は2016年に日本語版の『国際昔話話型カタログ 分類と文献目録』に翻訳され、その中の項目も「動物昔話」、「魔法昔話」などと名づけられた。ゆえに、以下列挙される日本の「昔話」合集などは日本の民話集と言えるだろう。

1.2.1 『遠野説話』

柳田国男は日本の民俗学の創業者である。柳田は民間文学を三つ（一．習慣、二．評判、三．感情の観念と信仰）に分け、民間説話と伝説を第二類に帰

納した。『遠野説話』とは、柳田国男が明治43年（1910年）に発表した岩手県遠野地方に伝わる逸話、伝承などを記した説話集である。遠野地方の土淵村出身の民話蒐集家であり小説家でもあった佐々木喜善より語られた、遠野地方に伝わる伝承を柳田が筆記、編纂する形で出版され、『後狩詞記』（1909年）『石神問答』（1910年）とならぶ柳田國男の初期三部作の一作。日本の民俗学の先駆けとも称される作品である。⁹ 現行の文庫版は新潮文庫、岩波文庫などで重版され、初版複製本『遠野説話 名著複製全集』（日本近代文学館監修、ほるぷ発売、1984年）も重版されている。

『遠野説話』を購読した人たちには作家に芥川龍之介や南方熊楠、水野葉舟らがあり、ニコライ・ネフスキー、柴田常恵、小田内通敏など学者にも購読者がいる。¹⁰ 当時はあくまで奇異な説話を、詩的散文で綴った文学作品として受け入れられた一方、田山花袋や島崎藤村などからは「粗野を気取った贅沢」あるいは「道楽に過ぎない作品」といった批判的な見方も見られた。民間伝承に焦点を当て、聞いたままの話を編纂したこと、文学的な独特の文体であることが高く評価されている。

1.2.2 『日本昔話集成』

柳田国男の後、日本の民俗学者の関敬吾が1950年から日本の民話合集『日本昔話集成』の編纂を始めた。『日本昔話集成』は動物昔話1部、本格昔話3部、笑話2部、合計で6巻刊行された。「その中に利用された資料は、明治の末（1912年頃）から第2次世界大戦直前（1939年前）直接口頭から採集されたものである。研究対象は口承の昔話にあるからである。資料の排列は比較的まとまった昔話を出来るだけ採集されたままの形で首位に揚げ、その他の類例に東北地方より行政地理的に排列した。文献に現れた資料は編者の目に触れた限り、それぞれの末尾に書名と頁数とを揚げておいた。近隣諸民族に伝承せるものは可能な限りその内容を簡単にあげることに勉めた。但し容易に入手し得る文献は書名と頁数を揚げた。排列の順序は概ね日本に近いものを先にした。」¹¹ 「その他の民族の類話は、主として、Aarne, Antti. *The types of the folktale*. Tr. By S. Thompson Helsinki, 1928. FFC No.74 及び Bolte, Johannes & Polivka, Gaorg, *Anmerkungen zu den Kinderund Hausmärchen der Brüder Grimm*. Bd. 1-3. Leipzig. 1913-18 によった。」¹² 関敬吾は『日本昔話集成』において、様々な民話と話型を列挙した上に、各種の民話が日本各地においての発信地、伝承状況も挙げ、それに幾つかの類話も後に添付して紹介した。

『日本昔話集成』に収録されている日本の民話は数があまり多くないが、日本民話の研究の新しい方向を開拓した。日本民話の分布や各国間の民話比較などを研究するための基礎的な資料として、その貢献は言うまでもなく高いと考えられる。

1.2.3 『日本昔話大成』

1978年から、関敬吾は『日本昔話大成』の各部を次第に完成した。『日本昔話大成』は動物昔話1部、本格昔話6部、笑い話2部、そして資料篇と研究篇各1部、合計で12巻からなっている。『日本昔話大成』は『日本昔話集成』に基づき、話型別に分類された集成Noをここに適用し、さらに各部最終巻にはそれぞれ新話型を加えた。『日本昔話大成』に用いた資料は明治末年(1911年ごろ)から昭和五十一年(1977年)末までに直接昔話の語り手から採集されたものである。諸外国との比較研究のために、アアルネ(アールネとも言う)・タンプソン(タンプソンとも言う)による国際的な基本型であるAT番号を付した。資料の配列には整った昔話を優先し、原型を損わないように代表話例として揚げた。その他の類話は要約して南から北へ配列し出典及びページを付した。¹³『日本昔話大成』に挙げられた説話の総数は『日本昔話集成』よりも増え、説話の話型にAT番号も付けられたゆえに、日本の民話研究をさらに国際基準に適合させ、日本民族と他民族の民話対比研究の発展にも貢献すると言える。

1.2.4 『日本昔話通観』

1977年—1998年の間に、稲田浩二が主編で同朋舎によって『日本昔話通観』が出版された。『日本昔話通観』は日本の47の行政区(1都1道2府43県)に従って地理的に区分され、26巻の昔話集、補遺、索引、研究篇5巻、合計で31巻からなっている。各巻の昔話集に収録された資料は地方によって違っているが、大体1910—1920年頃から1980年前後まで、以前の学者が直接に採集して発表した各地から伝承されてきた叙事文芸の資料、説話集などを網羅している。『日本昔話通観』に収載された「日本昔話」の範囲は1. 日本列島に近世以前から生活してきた者の伝承した昔話をいう。従って、現在多数を占める日本民族の伝承が中心となるが、アイヌ民族の伝承もこれに含まれる。2. 二十世紀の口承を調査記録したものと指す。¹⁴『日本昔話通観』は共時的な観点による地方別に編集された日本の民話集であり、『通観』で使用された資料は原則的に採集した原本だが、一部の資料は場合によって編集

者が「原文の概要」として要約しており、口述者の名前も巻末に付けられている。各巻の昔話がむかし語り、笑い話、動物昔話の三つのジャンルに分けられ、話型や候補の類型別で分類される。編集者はまず各篇の地方の伝承のなかで最も典型的な話型を挙げている。それから、同一話型を持つ話群のなかで典型話以外のものを「類話」として列挙している。最後に候補説話タイプ群を挙げている。複数の話型で構成された典型話、孤立話を話型の分析の結果によって配列している。

以上で、日本国内において一定の影響を持っている民話集を紹介したが、実は日本には民話集、日本伝説集、日本昔話集などが数多く出版されている。例えば、高木敏雄著、筑摩書房によって『日本伝説集』が出版された。未来社は2017年までに日本各地の民話をまとめ、75冊からなる『新版 日本民話』を出版した。世界文化社も日本各地の伝説を精選して『特選日本伝説』を刊行した。ただし、総合的に見れば、『日本昔話通観』は、今まで日本の出版物の中で最も系統的に整理された民話集だと言える上に、『日本昔話大成』と共に日本民話を研究する基礎的な資料とも見られる。

2. 中日における民話の話型分類への研究

各国に伝承されてきた民話は星の数ほどあるし、民話を持っている口承性、変異性などの不安定な要素が多いため、研究者は、どんなに心血と精力をかけても、民話という氷山の全貌を探ることができない。各国に収集された民話の資料が何万ほどあるが、研究者は説話のタイプとモチーフの数が民話の数に従って増えてこないことに気づいた。学者は中日両国に類似のタイプを持っている異文も沢山あると発見したゆえに、話型の分類研究と中日民話の比較研究などの考え方も提出された。そして、民話の収集、整理と出版に基づいて、中日両国における民話話型の分類研究などもよく進んでいる。

2.1 中国の民話における話型の分類研究

中国の民話話型の分類研究について、学者達の研究状態と成果を総体的に見れば、面白い現象が発見できる。つまり、中国民話への研究史は長く、中国民話の話型研究に目が向いている学者が中国人だけでなく海外の学者も揃っていることである。ひいては、今では外国の研究者も中国の民話により興味を持つようになってくる。

2.1.1 イギリス・N. B. Dennys — 『The folklore of China』

中国における最初の民話話型を分類する研究と言えば、恐らく 1876 年にロンドンで出版されたイギリス人 N. B. Dennys の著書『The folklore of China』¹⁵ に遡るだろう。全書は 13 の章で中国の各種の民話を紹介し、中国の民話を 8 類 17 型に分けている。Dennys は第一章に以下のように説明している。

Attention of Late Bestowed on the Study of Folk-lore-China
Presents a most Interesting Field of Enquiry—Little as yet Done to bring
together what is Known upon the Subject—Similarity between Chinese
and Western Beliefs—Our Recent Emancipation from Superstition—The
Myth-making Faculty Common to all Mankind—Previous Allusions to
Chinese Folk-lore—Arrangements of Subjects—Chinese Folk-lore
Extensive—Probable Derivation from the Cradle of the Aryan Races—
Importance of Popular Beliefs in Chinese Estimation.

つまり、Dennys は西洋人の視点で中国の民話を世界へ紹介し、解釈しただけでなく、中国と西洋の信仰の相似性、及びアリアン民族、ユダヤ民族の民話と中国民話との関連性も発見した。

2.1.2 中国・趙景深—『中国民間故事型式発端——英国譚勒研究結果』

中国民話の分類研究に初めて注目した中国国内の学者は趙景深¹⁶ だと思う。丁乃通は趙景深が「中国最大の説話の権威の一人」と評価している。1928 年に鐘敬文は自分と楊成志とで訳した『印欧民間故事型式表』及び『中国印欧故事之相似』を趙景深に贈った。それに対して、趙景深は『中国民間故事型式発端—英国譚勒研究結果』（『民俗』1928 年第 8 期）を書いた。その文の中で最初に中国の民話を世界民話の話型型式表に編纂したイギリス人 Dennys が書いた『The Folklore of China』を紹介し、評価した。趙景深は民話の話型型式表を編制することに対して、「すべての説話を少数の型式に無理に纏めることは絶対にできないだろう」と指摘した。それでも、趙景深は Dennys の八分類について、それぞれ中国民話の資料を補充した。それは鐘敬文の中国民話話型研究の内容を補充すると同時に、彼自身なりの見解を提出するものである。「一番大切なのは、先に総ての類型を研究することだ。総ての類型には何も残さずに一切のことが含まれているが、型式は恐らく完結できないかもしれない。」だから、趙景深は型式の編制が民話の研究に代わることには賛成しないと云ってもいい。¹⁷

2.1.3 中国・鐘敬文—『中国民譚の型式』

中国における民話の話型分類とタイプ・インデックスの編纂への探求は20世紀30年代頃から始まった。「1928年から、鐘敬文は一部の中国民話話型を作って、『民俗周刊』に連載した。その後は50余りの話型を統計し、『中国民間故事類型』を題にして、『民俗学専号』（即ち『民俗学集鐫』第一冊、1932年）に発表した。鐘敬文は中国の民話を45型52式に分け、話型にストーリーの概要も付けた。」¹⁸「なお、日語文では四十五タイプ 五十一式（日本民俗学会『民俗学』五卷十一号、一九三三、なお、日訳には二種類あり、もう一つは角川源義訳。両者は序文が異なる。）この最初の中国昔話話型索引は日本でも当時高い評価を得たものである。関敬吾博士の思い出によると、この文で彼が民話の比較研究という考えを呼び起こされたということだ。」¹⁹ 鐘敬文の後、中国の民話話型分類研究を巡って、三部の索引が登場した。

2.1.4 ドイツ・Wolfram Eberhard—『Typen Chiesischer Volksmärchen』

まずはドイツ学者のエーバーハルト（Wolfram Eberhard）博士が、中国人曹松葉の助けで1937年に編纂した『Typen Chiesischer Volksmärchen』（『中国民話の話型』）が挙げられる。この著作はドイツ語で書かれ、フィンランドの首都で発表され、FFC誌No. 120に所収された。中国語の訳本は王燕生、周祖生によって翻訳され、劉魁立により校正され、1999年に商務印書館で出版された。この本に挙げられた話型の分類はAT分類に従わず、該当するAT番号も表示することなく、中国民話の話型の特色によって分類されている。

鐘敬文は中国版の序文でエーバーハルトの分類に対して評価して次のように述べている。「エーバーハルトの『中国民話の話型』は中国民話に関わる相当な意義を持っている学術上のツールであり、この百年間西洋の学者が書かれた価値がある中国民俗学の重要な作品であると思う。…様々な条件の制限に拘っている状況で作られたが、我々が無視できないほどの特徴と長所を持っている。まず、この本は中国の民話を相対的に独自の対象とし、中国民話の特徴を要約して書かれた著作である。次に、本書に挙げられた話型はかなり豊富で、合わせて300話余り（本格説話275話、笑い話31話）が収録された。…中国でよく見られる説話はほとんど含まれていると思う。また、著者は本書の中で、豊富な話型を提供しているだけでなく、中国の民話に関わる各方面事情について自分なりの見解（そのことについての考証もある）も提起した。」²⁰

2.1.5 アメリカ・丁乃通—『A Type Index of Chinese Folktales in the Oral Tradition and Major Works of Non-Religious Classical Literature』

エーバーハルトの著作が出版された40年後、アメリカ籍の中国人学者の丁乃通が1978年に『A Type Index of Chinese Folktales in the Oral Tradition and Major Works of Non-Religious Classical Literature』（『中国民話の話型索引』）を発表した。この作はFFC誌No.223（Helsinki, 1978）に収録され、中国語訳本の『中国民間故事類型索引』は3版刊行された。1983年中国春風出版社によって発行されたが、この訳本には各型の文献が一例だけ挙げられ、大まかに翻訳されていたり、序文には矛盾や疑問があるところ、ミスや漏れが多く発見されたりしているため、評価が低かった。1986年に中国民間文芸出版社で再訳され、著者自身で校訂して出版された。2008年に華中師範大学出版社によって再度校訂し、印刷された。「丁はこの索引に、1966年以前の中国民話の資料を580種余り引用しており、特に少数民族の民話資料の搜集、収集を重視し、約7300篇の中から843の類型を纏めており、それぞれの類型についてもさらに細かく記述している。」²¹

鍾敬文は2008年版の序文に「まず、彼が運用した資料の豊富さを挙げられる。五四新文化運動後に収集・出版されたものだけでなく、わが国の古代文献から採ったものもある。特に、全国の解放後の収集と記録を大量に利用したことは特筆すべきである。当時、海外ではこの記録の科学的価値を全面的に否定しようとする見方があったからである。さらに、著者の中国と国際的な民話の話型の異等についての意見の考えも挙げられる。丁乃通の索引には843型が挙げられているが、その中の263型しか中国に固有のものはないので、中国の民話が独立したシステムを持っているという見方に反発している。」と高く評価した。²² この索引はAT分類と編集原則に基づいて、国際共通の番号を利用しているため、中国の民話研究を国際的な研究範囲に適合させ、国際比較研究の利便性に寄与したと言える。

2.1.6 中国（台湾）・金栄華—『中国民間故事集成類型索引』

台湾の学者金栄華は2000年に台北において三冊の『中国民間故事集成類型索引』を発表した。²³ この索引は中国20世紀80年代に民話を収集し整理した最新の成果としての「三つの集成」の『中国民間故事集成』を研究対象にして、民話の話型を分類の基礎として作られた著作である。全書の分類と話型番号はAT分類に従い、同時に丁乃通の索引に基づいている。新たな話型

に対して AT 分類の原則に沿って新しい番号を作り、「新增類型総覧」表の形で纏めて、簡潔な内容概要も添付し、本の最後に付属している。丁氏は当時の時代と文化的背景のため、民話の収集と整理の時、伝説、迷信や宗教などと関連しているものをすべて削除した。金氏の索引には台湾の原住民が口承してきた民話が多く集められ、他に金門、澎湖、桃竹苗、客家など台湾の特色に富んでいる民話も引用しているので、研究者にもっと豊富な材料を提供している。この本も台湾民話の愛好者と研究者にとって備えるべき参考書である。『中国民間故事集成』は民間文学調査の基礎に則って集められたものだから、所収した材料の科学性、全面性、代表性も金氏索引の価値も一層増加した。丁氏が単純的に AT 類型を挙げて、読者自身で照会させていることに対して、一部分の新しい説話を増加するため、読者が受け入れやすいと言える。ただし、この索引には現有の資料を利用する際の全面性と代表性などの方面では欠けているところもあるとの指摘もある。

2.2 日本の民話における話型の分類研究

外国人も中国の民話の研究へ強い興味を持っている一方、日本の民話を巡る話型分類研究はほとんど自国の日本により行われている。中国民話への研究が外から中へ影響してくる過程に対し、日本民話への研究は中から外へ展開していく状態だと言える。

2.2.1 関敬吾一『日本昔話の型』

関敬吾が昭和 32 年（1957 年）に発表した『日本昔話の型』は日本民話研究においての早期の成果と言える。1966 年に英語²⁴に訳されて、2013 年に小澤俊夫補訂によって再版²⁵された。「日本昔話の型」とは、関敬吾が「昔話は、本来、モチーフ、モチーフの結合からなる挿話、さらにその挿話がいくつか組合されることによって、一つの完全な形を作る。…これらの構造形式を昔話の型という。」²⁶と解釈した。所収の話数について、「ヨーロッパ諸国の資料にもとづいてなされた昔話の型は、アアルレによると約 760（動物昔話 111、本格昔話 378、笑話 291）である。日本の昔話の型は本稿で抽出したものが約 600（動物昔話 80、本格昔話 184、笑話 314）である。」と説明した。原稿に利用された資料は明治 40 年代（1907 年頃）より現在までに口頭によって語られたものを記録し、雑誌、地方新聞、郡誌類、書冊の形で公されたもの、さらに未刊の原稿及び筆者自身が採集したものによっている。利用された話数は 8622 であり、東北地区と九州地区の数量が多い。但し、こ

これらの資料の収集は偶然になされたものが多く、茨城、東京、三重、宮崎などはまだほとんどなく、まだ全国を覆っているとはいえないと関氏自身も説明した。

関敬吾は日本の民話を (1) 動物の起源 (2) 動物 (3) 人、人食い魔 (4) 超自然の妻と旦那 (5) 超自然の誕生 (6) 人と水の精神 (7) 新奇な対象 (8) 運命の説話 (9) 人類の婚姻 (10) 運命と致富 (11) 衝突 (12) 詐欺師 (13) 笑話 (14) 競争の能力 (15) 牧師と新手 (16) 神様から贈与のプレゼント (17) 阿呆と愚者 (18) 公式物語という 18 型分けた。この分類は日本民話の話型分類研究への試みとして、これからの大型の民話索引を作成することの参考になるだろう。

2.2.2 関敬吾一『日本昔話集成』、『日本昔話大成』

前文に紹介した通りに、関敬吾は 1950 年から『日本昔話集成』、1978 年から『日本昔話大成』を編纂した。『日本昔話大成』は『日本昔話集成』に基づき、話型別に分類された集成 No を適用し、さらに各部最終巻にはそれぞれ新話型を加えた。関氏は『日本昔話集成』の最終巻の「本格昔話 3」に「資料目録」と「総索引」を纏めた。さらに『日本昔話大成』を編集した時、10 巻の昔話集のほか、別途で「資料篇」と「研究篇」を各 1 巻作成した。「資料篇」には昔話の型、話型索引だけでなく、主人公索引と資料、文献の目録、話型分布図なども含まれている。関敬吾は日本の昔話を動物昔話、本格昔話、笑い話と三つに分けた。具体的言えば、動物昔話類型 11 (一 動物葛藤、二 動物分配、三 動物競走、四 動物競争、五 猿蟹合戦、六 勝々山、七 古屋の漏、八 動物社会、九 小鳥前生、十 動物の由来、十一 新和型)、本格昔話類型 16 (一 婚姻・異類聳、二 婚姻・異類女房、三 婚姻・難題聳、四 誕生、五 運命と致富、六 呪宝譚、七 兄弟譚、八 隣の爺、九 大歳の客、十 継子譚、十一 異郷、十二 動物報恩、十三 逃鼠譚、十四 愚かな動物、十五 人と狐、十六 新話型)、笑い話類型 6 (一 愚人譚、二 誇張譚、三 巧智譚、四 狡猾者譚、五 形式譚、六 新話型) である。

「資料篇」の「昔話の型」に収録された話型は合計で 843 型ある (動物昔話 83、動物新 21、本格昔話 101、本格新 46、笑い話 301、笑い話 26、補遺 38)。関敬吾は「昔話の型」に挙げられた話型に対応している AT 番号もつけた。そして、後の「話型索引」の部分で『日本昔話大成』に収録された昔話を日本語の五十音の順で配列した。さらに、昔話が所属の部頭、大成番号、集成

にての巻・頁、特に AT 番号にも対応している表も作成した。読者が簡単に日本昔話を探せ、日本の民話と世界の民話とのつながりを容易に把握できるから、『日本昔話大成』の「資料篇」は日本昔話の理解と研究にとって簡易な使いやすい辞書だと言えるだろう。

2.2.3 池田弘子—『A type and motif index of Japanese folk-literature』

池田弘子の日本昔話の分類を巡る研究成果『日本昔話タイプとモチーフ・インデックス』は 1971 年に FFC 誌に載せられ、学界に知られ始めた。しかし、実はその前に池田弘子はアメリカ、インディアナ州立大に留学し、ステイス・トムプソンに師事した時期から、修士論文のテーマとしてこの研究を手がけていた。1950 年最初は約 100 ぐらいの主な説話を選んだが、1955 年博士論文の時、ヨーロッパに類似している日本昔話の 200 タイプ及び日本昔話のモチーフ・インデックスを纏めた。²⁷ 1971 年 FFC 誌に出版された²⁸ 際に資料をさらに補充して、口承してきた日本の昔話、伝説の他に、八世紀から十一世紀にかけて書かれた最古の口承文芸の書々に記される説話も網羅した。1984 年三回目出版された。²⁹ 池田弘子は 439 のタイプを AT 番号によって分類しており、該当番号がない場合新しい番号をつけ、適当な所に当てはめた。

各タイプの記述について、南八枝子は書誌紹介で説明した。「まず第一に地理的な分布で、これは青森から九州の各県及び沖縄に至るまでの各島を 1 から 48 までの番号で表し、分布状況が一目で把握できるように考えられている。次に、同類譚の数、及び、それを記載する文献が示される。三番目に、話の筋の特徴的な点が簡単に記され、アアルネ・トムプソンのインデックスにあると同様に、モチーフ番号がカッコに入れて示されている。また、しばしば五番目に著者の註が加えられ、記紀をはじめとする書、能、狂言、或いは講談に至るまでの文芸との関連が述べられる。日本近在の地域に見られる同類譚の言及される場合もある。」³⁰

タイプ・インデックスのほかに、この著作にモチーフ・インデックスもまとまっている。ステイス・トムプソンのモチーフ・インデックスは全世界の口承文芸について整理分類したものである。しかし、池田の本には日本の説話に概当する番号のみ約 1800 が並べられ、それぞれどのタイプに使用されているかタイプ番号が記されている。また、関敬吾の『Types of Japanese Folktales』との分類番号相対表もあり、池田・関、関・池田の二通りの表が

挙げられている。

2.2.4 稲田浩二『日本昔話通観』

稲田浩二が1977 - 1998年に主編した『日本昔話通観』の第28巻は「昔話タイプ・インデックス」で、第29巻は「総合索引」である。第28巻の「日本昔話タイプ・インデックス」は『日本昔話通観』の第2巻から第26巻まで、1211の話型の日本昔話をむかし語り、動物昔話、笑い話、形式話と四つの項目に分けられ、合計で以下の29類型にまとまった。1. 人の世の起こり 2. 超自然と人 3. 異郷訪問 4. 天恵 5. 呪宝 6. 誕生 7. 兄弟話 8. 継子話 9. 婚姻 10. 霊魂の働き 11. 厄難克服 12. 動物の援助 13. 社会と家族 14. 知恵の力 15. 動物の前生 16. 動物の由来 17. 動物葛藤 18. 動物競争 19. 動物社会 20. 賢者と愚者 21. おとげ・狡猾 22. くらべ話 23. 愚か者 24. 愚か婿 25. 愚か嫁 26. 愚か村 27. 誇張 28. 言葉遊び 29. 形式話。

稲田浩二が「日本昔話タイプ・インデックス」の第四章に「一つの民族の昔話タイプは、国際的・民族的な比較検討によって、その固有性と国際的対応性が確認される。」と提起した。それで、稲田氏は本書の日本昔話タイプ・インデックス、エーバーハルトの『中国昔話の型』、崔仁鶴の『韓国昔話の研究』アイヌ民族の『日本昔話通観』1アイヌ篇とAT分類に基づいて、国際的・民族的比較（隣接の朝鮮民族、漢民族、アイヌ民族との比較）と国内タイプ・インデックスの対照（日本昔話名彙、日本昔話大成との対照）の表を作った。対照表には2011話型の昔話がすべて挙げられているから、前述の本を揃えたら、日本昔話と隣国との類話ないし世界のほかの国との類話を早めに見つけるようになった。また、「資料篇」に説話のモチーフによって挙げられた典型話と類話、タイプ名索引、AT対応関係タイプ索引なども付いているため、この著作は日本において、日本昔話の比較研究にも、世界での民話の比較研究にも今まで最高の貢献と見られるだろう。

おわりに

以上の説明によって19世紀から今日まで、中日両国の民話を巡る民話集の編纂と話型類型の分類に関する研究概況を大体了解した。学者の力を尽くして作られた著書などが私たち後継者にとってこれからの研究の参考になると見られるが、さらに幾つかの私見と問題点を提起したい。

まずは民話の収集と収録の問題が挙げられる。前文の民話集を例として考察してみれば、民話の収集者と編纂者は民話の変異性と口承性を重視する傾向がある。『中国民間故事集成』と『日本昔話通観』に利用された資料は「口頭で伝承してきたもの」とはっきり説明されている。さらに、近年編纂された民話集では民話の伝承地、発生地と民話の伝承者、口述者の名前も付けられている。それは民話研究資料の緻密性と科学性を保証するために、必要な研究方法である。民話というものは変異性があるのに対し、安定性も持っている。民衆の口承で伝承してきたものだけでなく、一部文字で記録されたものもある。池田弘子が1971年に使った資料は「口承してきた日本の昔話、伝説の他に、八世紀から十一世紀にかけて書かれた最古の口承文芸の書々に記される説話も網羅した。」ほかの編集者は大体19世紀からの口承資料だけを利用している。特に、中国の民話集で使用された資料はほとんど口承の説話で、現代に伝わっているものが一定の比率を占めている。このような民話集は資料の全面性に欠けていると考えられる。

次は中日両国の民話話型の分類研究に関する国際化の問題である。中国と日本は今まで民話話型の分類研究にはAT分類に従っているもの（丁乃通の『中国民間故事類型索引』と池田弘子の『A type and motif index of Japanese folk-literature』）もあり、自国の特色を守っているもの（鐘敬文の『中国民譚の型式』とエーバーハルトの『Typen Chiesischer Volksmärchen』）もある。全体から見れば、やはりAT分類に沿っているものが多いとわかる。アールネ・トンプソンの世界民話の類型索引は一部の民俗学者に指摘されているが、AT分類よりもっと科学的、有効な分類索引が作成される時まで、AT分類は世界各国の学者が民話分類の重要な研究方法として、まだ役割があると考えられる。そして、中日両国の学者が自国の民話研究をAT分類、つまり国際的な基準へ近づけようとしたが、中国と日本の民話分類は国際基準に合うかどうか、国際基準に寄ると共にどのように自国民話の特色を保つか、まだこれからの重要な課題だろう。

最後は学術研究の方法についてのことである。前文に説明したが、アメリカ籍中国人の丁乃通とドイツ人のエーバーハルトが各々中国の民話分類索引を作った、その二つの索引で使った分類方法はまったく違っている。丁氏の索引はAT番号に従っているのに対し、エーバーハルトの索引は中国民話の特徴にしたがって作られている。エーバーハルトは中国の民話が国際的なAT

分類に適応できるか、丁氏が民話資料から鬼神に関するものを削除したことは正当かなどについて、疑問と疑義を提起した。エーバーハルトの質疑に応じて、丁氏もそれぞれ説明を出し、特にエーバーハルトが中国の民話を世界の民話と完全に剥離させるのは適当だろうかと反論した。丁氏とエーバーハルトの言論は学術上の論争で、二人の研究にとっても、中国民話の研究にとっても役立つものと見られる。1973年に関敬吾は『民俗学研究』で具体的な例と詳しいデータを挙げて、池田弘子がFFC誌に1971年に発表した『A type and motif index of Japanese folk-literature』が自分の研究成果を無断で借用したと指摘した。この指摘について池田氏本人から何も返事していない。しかし、この事件によって、素晴らしい成果が出せるのは誰でも望んでいても、我々研究者はいつまでも厳密的、科学的な態度と自覚を持たなければならないということが改めて認識され、そのようにすれば、自分の研究が順調に前へ進んでいくとわかる。

注：

(Endnotes)

- 1 スティス・トンプソン著 荒木博之 石原綏代訳『民間説話 世界の昔話とその分類』、東京：八坂書房、2013年、22頁。
- 2 馬名超 王彩雲主編『中国民間文学大辞典・上』、哈尔滨（ハルビン）：黒龍江人民出版社、1996年、23頁。
- 3 稲田浩二 稲田和子『日本昔話ハンドブック』、東京：三省堂、2001年、240頁。
- 4 デジタル大辞泉 小学館
- 5 フリー百科事典 ウィキペディア
- 6 沈梅麗「近百年民間文学彙選本論略」、『民族文学研究』、2015年、12-20頁。
- 7 十一五：中国における11回目の五年計画、即ち2006年—2010年の期間であり、国家の企画によって、五年ごとに一つの計画期間であるようだ。
- 8 アールネ・トンプソンのタイプ・インデックス（Aarne-Thompson type index、AT分類）とは、世界各地に伝わる昔話をその類型ごとに収集・分類したもの。アンティ・アールネにより編纂され、スティス・トンプソンにより増補・改訂されたことから二人の名を取ってこう呼ばれている。昔話の研究においては分類体系の標準として世界的に用いられている。類型ごとにAT番号と呼ばれる番号が振り当てられ、索引（インデックス）または目録（カタログ）として参照される。
- 9 後藤総一郎監修『注釈遠野説話』、東京：筑摩書房、1997年、23頁。
- 10 石井正巳『図説遠野説話の世界』、東京：河出書房新社、2000年、33頁。
- 11 関敬吾『日本昔話集成第三部 本格昔話1 凡例』、東京：角川書店、1950年、8頁。

- ¹² 関敬吾『日本昔話集成第一部 動物昔話 凡例』、東京：角川書店、1950年、7頁。
- ¹³ 関敬吾『日本昔話大成第一部 本格昔話一 凡例』、東京：角川書店、1978年、7頁。
- ¹⁴ 稲田浩二『日本昔話通観 第1巻 北海道 アイヌ民族』編集方針、京都：同朋舎、1989年、xvii-xx頁。
- ¹⁵ Dennys, N. B. The folklore of China, and its affinities with that of the Aryan and Semitic races. London: Truener.1876.
- ¹⁶ 趙景深（1902 - 1985）民間文学、児童文学研究家である。中国民間文学学科の定礎者の一人で、中国の民間故事学の創始者と言われる。代表作は『民間故事研究』（復旦書店1928年）、『童話概要』（北新書局1927年）などある。
- ¹⁷ 劉錫誠「趙景深：独歩故事学坛—趙景森誕辰110周年」、『中国社会科学報・学林』、2012年5月7日。
- ¹⁸ 艾伯華著 王燕生、周祖生訳『中国民間故事類型 中訳本序』、北京：商務印書館、1999年、2頁。
- ¹⁹ 加藤千代「中国昔話の話型索引—エーバーハルトの書評と丁乃通の反論」、『口承文芸研究』、10号（1987年）、161-172頁。
- ²⁰ 艾伯華著 王燕生、周祖生訳『中国民間故事類型 中訳本序』、北京：商務印書館、1999年、3-4頁。
- ²¹ 劉守華 陳建憲『民間文学教程』（第二版）、華中師範大学出版社、2009年、67-68頁。
- ²² 丁乃通『中国民間故事類型索引 序一』、武漢：華中師範大学出版社、2008年、1-2頁。
- ²³ 金栄華『民間故事類型索引』（増訂本、全四冊）、新北：中国口傳文学学会、2014年。
- ²⁴ Seki, Keigo. Types of Japanese Folktales. Asian Folklore Studies, v. 25. Tokyo: Shorai Press, 1966.
- ²⁵ 関敬吾著 小澤俊夫補訂『日本昔話の型 付モチーフ・話型・分類』、福岡：三角商事株式会社、2013年。
- ²⁶ 関敬吾「日本昔話の型」、『民族学研究』、第21巻 第1・2号（1957年）、80-88頁。
- ²⁷ Iketa Hiroko. A Type and Motif Index of Japanese folk-Literature. University Microfilms International. Dissertation Information Service, 1955.
- ²⁸ Iketa Hiroko. A Type and Motif Index of Japanese folk-Literature. FFC, No. 209. Helsinki, 1971.
- ²⁹ Iketa Hiroko. A Type and Motif Index of Japanese folk-Literature. University Microfilms International, 1984.
- ³⁰ 南八枝子 池田弘子「日本の口承文芸の型とモチーフインデックス」『日本民俗学』、78号（1971年）、73-75頁。

参考文献：

日本語

1. スティス・トンプソン著 荒木博之 石原綏代訳『民間説話 世界の昔話とその分類』、東京：八坂書房、2013年。
2. 稲田浩二 稲田和子『日本昔話ハンドブック』、東京：三省堂、2001年。

3. 後藤総一郎監修『注釈遠野説話』、東京：筑摩書房、1997年。
4. 関敬吾『日本昔話集成』、東京：角川書店、1950～1957年。
5. 稲田浩二『日本昔話通観』、京都：同朋舎、1977～1998年。
6. 関敬吾『日本昔話大成』、東京：角川書店、1978年。
7. 加藤千代「中国昔話の話型索引—エーバーハルトの書評と丁乃通の反論」、『口承文芸研究』、10号（1987年）、161-172頁。
8. 関敬吾著 小澤俊夫補訂『日本昔話の型 付モチーフ・話型・分類』、福岡：三角商事株式会社、2013年。
9. 関敬吾「日本昔話の型」、『民族学研究』、第21巻第1・2号（1957年）、80-88頁。
10. 柳田国男『新版 遠野物語』、京都：角川学芸、2013年。
11. 鐘敬文「中国民譚の型式」、『民俗学』、第五巻11号（1933年）、17-28頁。

英語

1. Dennys, N. B. The folklore of China, and its affinities with that of the Aryan and Semitic races. London Tru`bner, 1876.
2. Iketa Hiroko. A Type and Motif Index of Japanese folk-Literature. FFC, No. 209. Helsinki, 1971.
3. Nai-Tung Ting. A type index of Chinese folktales: in the oral tradition and major works of non-religious classical. FFC, No. 223. Helsinki, 1978.
4. Hans-Jörg Uther. The types of international folktales a classification and bibliography based on the system of Antti Aarne and Stith Thompson. FFC, No. 284-286. Helsinki, 2004.

中国語

1. 丁乃通『中国民間故事類型索引』、武漢：華中師範大学出版社、2008年。
2. 劉守華 陳建憲『民間文学教程』（第二版）、武漢：華中師範大学出版社、2009年。
3. 艾伯華著 王燕生、周祖生訳『中国民間故事類型』、北京：商務印書館、1999年。
4. 金榮華『民間故事類型索引』（増訂本、全四冊）、新北：中国口傳文学学会、2014年。
5. 馬名超 王彩雲主編『中国民間文学大辞典』、哈尔滨（ハルビン）：黒龍江人民出版社、1996年。
6. 沈梅麗「近百年民間文学彙選本論略」、『民族文学研究』、2015年、12-20頁。
7. 劉錫誠「趙景深：独歩故事学坛—趙景森誕辰110周年」、『中国社会科学報・学林』、2012年5月7日。
8. 鐘敬文『中国民間故事集成』、北京：中国 ISBN 中心、1992-2001年。